

令和6年度 学校運営等に関する評価書	
学校名	和歌山市立貴志小学校
作成日	令和7年3月7日

1 教育目標

自ら考え、正しく判断し、進んで実践する力を身につけた人間性豊かな貴志の子供の育成をめざす。

2 学校自己評価についてのご意見

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	・県学習到達度調査で基本問題の正答率が県平均を上回る。 ・毎日の勉強が分かる(児童80%以上)	・学校が楽しい(児童80%以上) ・図書の本を借りる(児童100%) ・いじめの解消(児童100%) ・情報モラル授業を実施する ・朝の挨拶ができる(児童100%)	・基本的な生活習慣を整え、感染症予防に留意する。 ・体力の向上を目指し、縄跳びカード等、学習カードを用いて取り組む。 ・休み時間は外遊びを積極的に行う。 ・朝ごはんを食べる(100%) ・交通安全教室や避難訓練を実施し、児童の安心安全に努める。	・学校の教育活動や子供の様子がよく伝わった(保護者90%) ・地域の人材を活用する ・他校と連携して研究授業を行う。 ・中学校区における学校間の連携推進
意見重点目標に対する	・様々なアプローチで丁寧に取り組んでいる。 ・教科等別研修会に毎年研究授業を提供する等、教職員がモチベーション高く授業改善に取り組んでいる。 ・一人一人に丁寧に指導支援をしている。 ・対話を大切にしている。 ・確かな学力のために、家庭学習の充実が大切である。 ・自主学習の取組は有効。	・近年、小学校の携帯電話の使用率が上がり、いじめ等のトラブルが表面化するまでに時間がかかり、内容も複雑化しているように感じる。 ・様々なアプローチで丁寧に取り組まれている。	・児童の健康な体づくりや安全確保にしっかり取り組まれている。 ・挨拶運動に取り組み、登下校の子供たちの様子から明るく元気な学校だと感じる。 ・生活習慣の確立が健やかな体の大前提である。	・家庭及び地域との連携は、長い時間をかけて積み上げてきた実績である。 ・全家庭や地域全員に理解協力を求めるのは難しいが、出来るだけ多くの方に理解を得ていくための不断の努力が必要。
意見取組状況に対する	・さぼーと教室、放課後のびっこで基礎学力の定着に向けた取組をしている。 ・道徳教育研究校として、教職員が他校と研究交流を行い、子供たちの対話力向上に努めている。	・いじめ等の事案に対して、学校はインターネット社会の情報モラルについて、外部講師による授業を行った。また、子どもや保護者に熱心に向き合った。 ・道徳学習や読書によって周りの人の立場や多様な考え方を思いやる想像力ややさしさが児童に培われるので、市には、引き続き、教員が余裕をもって学校現場で指導に取り組めるような人員配置をお願いしたい。 ・挨拶運動が学校全体の明るさにつながっている。	・6年生は運動会での組体操、きのくにチャレンジランキングに挑戦し、学級全員で目標に向かって、粘り強く取り組む機会を作った。 ・児童たちがみんなで意欲的に縄跳びチャレンジに取り組み、それを教員がそばで力強く盛り上げていた姿が印象的だった。 ・事情があって遅刻している児童も学校へ元気に通っている様子がうかがえ、学校へ通うことが楽しいのだろうと感じた。	・道徳教育研究校として、教職員が他校と研究交流を行い、子供たちの対話力向上に努めている。 ・今年度は、交通安全教室、貴志っ子夏祭り、夏休み地域イベントで、地域の方と交流することができた。 ・他校と交流しながら研究授業の取組を続けているのはとても良いことである。
対取組の意見適切さの検証結果に	・少人数での取り出しやTT指導により、算数のように「小学校で覆くと、中学校以降に大きく響いてくる分野」を中心にきめ細かなフォローと全体の底上げをしているのがとても良い。 ・「家庭学習の仕方」を低・中・高に分けて出しているのはとても良い。	・インターネットに対する問題では、情報モラルの学習だけではなく、望ましい活用方法を指導するだけでなく、インターネット以外にも夢中になれるよう、運動会や授業で目標を決め指導を行った。 ・一人一台の端末を活用し、クラス・学年で交流し、ネット上の意見交換の仕方を学んだ。 ・高学年児童の「学校が楽しい」に肯定的な評価が高いことは、学校の好ましい取り組みの表れである。	・避難訓練においては、休憩時間にも行うなど、いろんな場合に対応した工夫がなされている。 ・避難道の見直しなど、子供たちの安全確保に取り組んでいる。 ・学校が児童に指導することはもちろん、保護者の啓発及び協力が欠かせない。	・地域の方へありがとう集会などで、子供たちが地域の方へ感謝の気持ちを表現する機会を作ることができた。 ・教科等別研修会に毎年研究授業を提供するなどの取組は保護者におおいに伝えていっていいものだと感じる。 ・学校の取組の情報発信をもっと積極的に行った方がよい。 ・子供が通う間の6年間、育友会に対して保護者の理解協力を得られるようになればよい。 ・地域の企業とも連携して取り組んでいるが、さらにこの動きを加速させるとよい。
改善年度法にに向けての意見	学習においても成功体験と学ぶ喜びを数多く積み重ねてほしいので、市に対しては今後もさらに児童に対する教員数を増やすようお願いしたい。 ・保護者の意識を啓発するために、保護者向けアンケートの中で、「子供は家庭学習の習慣が身についているか」等の問いかけがあっている。 ・4年生の算数の学力に課題があるので、早いうちに対応できるようにしてほしい。 ・環境学習に県庁等のお話講座を活用することもできる。	・読書について、子供たちが読書だけではなく、アウトプットへつなげられたらと感じる。 ・(本のポップづくりや読書郵便等)・読解力の向上は読書量を増やす・図書の本をもっと活用するようにしてほしい。 ・子供たちには様々な人の集まる小学校での集団生活を通じ、人の輪を大切にしながら社会でたくましく強く育ってほしい。 ・情報モラル教育は今後も続けてもらいたい。 ・保護者アンケートで「いじめをなくす学校づくりで「わからない」が多いのに対して、もう少し原因を掘り下げる必要がある。 ・「図書の本を借りている」という指標があった方がよい。	・縄跳びチャレンジの取組はとても良かった。 ・学年を越えた取り組みもなされているが、上級生が下級生を誘うような取組があっても良いのではと感じる。 ・交通安全教室については、高学年も自転車の並走運転禁止等、法律改正した内容を教えてあげてほしい。	・今年度は図書ボランティアや保護者の図書担当の教員と司書が図書室の整理整頓や図書に親しんでもらえる工夫を行った。 ・来年度も継続し、読書推進に協力できる方が増えていけばと思う。 ・保護者アンケート結果で、親子の会話の減少が気になった。 ・様々な集会的な文化行事子供たちが取り組む様子を参観したり、育友会行事を充実する等、保護者の心が動く行事を増やしていけたらと感じている。 ・「学校開放」をもっと有効活用したい。 ・学校に来た方に児童手作りのお礼状を渡すというのも感謝の気持ちを表すためにいいのでは。